

アレクサンドル・チェレブニンの「近代音楽祭」について(1)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 静岡大学学術院教育学領域 公開日: 2017-06-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 服部, 慶子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00010306

アレクサンドル・チェレプニンの「近代音楽祭」について（1）

About 'Festival of Modern Music' by Alexandre Tcherepnin (1)

服 部 慶 子

Keiko HATTORI

（平成28年10月3日受理）

1. はじめに

アレクサンドル・チェレプニン（Alexandre Tcherepnin, 1899-1977）は、サンクトペテルブルグに生まれ、1917年に起こったロシア革命によりトビリシへ、1920年代には「世界の音楽の中心地」であったパリへと移り本格的な作曲活動を始めた。その後、1930年代には演奏旅行でパレスティナ、エジプト、トルコ、そして中国、日本へ赴き、1945年以降はアメリカ旅行を経て移住するという、生涯に亘って各地を巡った作曲家兼ピアニストである。こうした彼の各活動年代から楽曲分析を行った研究は、一定の成果を挙げている。その中でも音楽学者ベリアエフ（Viktor Belliaev, 1888-1968）が、チェレプニンを「現代のロシア音楽と現代のヨーロッパ音楽を接続した」（Belliaev 2008:98-102）と評価したことは特筆すべきだろう。

近年では、彼が1934-37年の3年間に中国と日本を往復した「東洋への旅行」に関する研究も、大きく前進した。元々、チェレプニンが行った「日本国民的性格」の作品を対象にした「チェレプニン賞コンクール」や邦人作品を収集して自費出版した『チェレプニン・コレクション』の事業に関しては、音楽書籍や事典、邦人作曲家の伝記でも取り上げられており、日本洋楽受容史では既知のものであった。それが、彼と交流した新興作曲家聯盟の活動から、1930年代の日本の洋楽創作における多様化について論じた学位論文（熊沢 2009）や、彼が果たした音楽教育的な役割を評価した学位論文（王文 2010）が発表されたことにより、音楽史的評価もなされた。

しかしながら、こうした彼の楽曲分析や東洋における活動に関する研究は進んでいても、ピアニストとして日本で行った演奏活動については、一つの軌跡という扱いに留まり、十分な検証がなされていない。ピアニストでもあったチェレプニンの演奏は、当時の日本楽壇にはどのように捉えられていたのだろうか。多様な潮流が再検討されている現代で、彼の演奏家としての評価を考察することは、戦前の受容史の一様を明らかにすることにも繋がるだろう。

そこで本研究では、チェレプニンが日本で行った演奏会「近代音楽祭 Festival of Modern Music」に焦点を当て、彼がピアニストとして行った演奏活動の評価を試みたい。その方法として、第1に「近代音楽祭」のプログラムを精査し、その構成特徴を導出する。第2に雑誌記事やチェレプニンの日記から開催目的やターゲットとした聴衆層を明らかにする。その上で当時の楽壇でどのような評価を得ていたのかを考察し、今日的評価との比較検証を試みたい。その最初の課題として本論文では、2017年3月に東京オペラシティで行う筆者の再現演奏会へ向

けた資料とするためにも、当時のプログラムを精査し、「近代音楽祭」で取り上げられた作品概要を明らかにする。そして作品概要からプログラムの構成特徴を導出したい。

2. チェレブニンの「近代音楽祭」

チェレブニンの「近代音楽祭」とは、1936年10月5日（月）、7日（水）、10日（土）の19時半から、東京宝塚劇場で行われた演奏会の総称である。これまでにも彼は、1934年10月4日に東京放送局で自作《ピアノ協奏曲第2番》Op.26（1923）のラジオ放送、同年10月15日に日本青年館で自作ピアノ独奏会、1935年2月10日に初期ピアノ作品のラジオ放送、同年2月13日と1935年2月13日に新交響楽団（現NHK交響楽団）の定期公演で自作のピアノ協奏曲等を演奏していた。このような来日中の演奏活動の集大成として、3夜に亘る「近代音楽祭」が開催されたのである。

2-1. 演奏会プログラム

「近代音楽祭」の演奏会プログラムは、明治学院大学付属図書館日本近代音楽館に所蔵されている。プログラムは表紙を含めて16頁あり、全3夜の演奏曲目が左開きから英語、右開きから日本語で記されている。表紙と裏表紙には、共通して演奏会の日時と会場、各夜の演奏会名、ロゴマークが記されている。このロゴマークは、『チェレブニン・コレクション』の事業の際に、ベリヤーエフ版を真似て作られたものである。「近代音楽祭」でも使用されていることから、彼の東洋における活動の一環として演奏会が開催されることを意味している。

プログラムの内頁は、全3夜の演奏曲目が6頁（英語3頁、日本語3頁）と、広告が7頁を占めている。現代の演奏会のような曲目解説は付けられていない。プログラムの半分以上を占める広告は、チェレブニンに関連するものである。ビクターレコードから彼が吹き込んだ邦人ピアノ曲のレコード販売広告、ユニヴァーサル・エディションの日本代理店で『チェレブニン・コレクション』の販売店でもあった龍吟社から取り扱い楽譜の広告、彼の記事を載せた音楽雑誌『音楽評論』の10月号の目次、彼の指揮による新交響楽団の次回演奏会予告である。その他にチェレブニンの自作楽譜の出版社一覧もあることから、このプログラムには彼個人の商業的な要素も含まれている。

次の項では各夜で演奏された作品について詳述する。プログラムに記載された楽曲名や作曲年については、出版譜、事典、作曲家の作品目録と比較しながら実際の作品との整合性を取る。

2-1-1. 第1夜 1936年10月5日（月）「自作演奏会Ⅰ」

第1夜のプログラムは、「IV近代日本ピアノ曲」を除いて、チェレブニンのピアノソロ作品で構成されている。チェレブニンの自作品については作品目録（Korabelnikova 2008）と出版譜を、邦人作品については筆者の学位論文（服部 2014）と出版譜を参照する。各作品の詳細は、まず「近代音楽祭」のプログラムに記載された英語と日本語の作品名、作品番号、作曲年を記し、次に事典や目録に記されている日本語の作品名と、初版に記された原語の作品名、作曲年、演奏時間、作品概要（速度標語、調号、拍子、小節数等）を記す。そして出版譜については、出版社名の後の括弧内に所収楽譜名、出版年、記載がある場合は校訂者を、括弧外、或いは文中に現在の取り扱いの有無を記すこととする。尚、ローマ数字で示した番号は、プログラムに沿った。

I チェレブニン《ピアノ・ソナタ Sonata A Minor》Op.22 (1919)

作品名：《ソナタ第1番（イ調のソナタ）Sonate en La》Op.22

作曲年：1918-19年、演奏時間：16分

概要：I Allegro commodo、調号：なし、拍子：12/8、小節数：245

II Andante、調号：♯1、拍子：4/2、小節数：25

III Allegro、調号：♯5、拍子：4/4、小節数：80

IV Grave、調号：なし、拍子：3/4、小節数：75

出版譜：Heugel-Leduc, Paris (1924年、I.Philipp) 取り扱いなし

「近代音楽祭」のプログラムにはソナタ（英語でA Miner）と記されていたが、初版の出版譜には調性ではなく、‘Sonate en La’と記されている。この作品は、彼の作品を特徴付ける「チェレブニン音階」が使用されており、明確な長短の調性を持たない。したがって日本語訳では、「イ調のソナタ」とするほうが、作品の性格を正確に表すことができるだろう。また、このピアノソナタは他のソナタ作品と区別するために、現在では第1番と採番されている。

II チェレブニン 《バガテル（小品十曲）Ten Bagatelles》 Op.5 (1912-17)

Allegro marciale. Con vivacita. Vivo. Lento con tristezza. Dolce. Allegro con spirito. Prestissimo. Allegro. Allegretto. Presto.

作品名：《バガテル Bagatelles》 Op.5 作曲年：1912-18年、演奏時間：12分

構成： 1. Allegro marciale (♩ = 84)、調号：♭3、拍子：4/2、小節数：17

2. Con vivacita (♩ = 96)、調号：♭1、拍子：2/2、小節数：49

3. Vivo (♩ = 112)、調号：♯2、拍子：3/8、小節数：80

4. Lento con tristezza (♪ = 60)、調号：♯2、拍子：2/4、小節数：30

5. Dolce (♩ = 54)、調号：♯3、拍子：4/4、小節数：16

6. Allegro con spirito (♩ = 92)、調号：♭6、拍子：4/2、小節数：19

7. Prestissimo (♩ = 152)、調号：♭3、拍子：3/8、小節数：150

8. Allegro (♩ = 168)、調号：♭4、拍子：12/8、小節数：37

9. Allegretto (♩ = 88)、調号：♯1、拍子：2/4、小節数：58

10. Presto (♩ = 168)、調号：♭3、拍子：2/4、小節数：137

出版譜：①Heugel-Leduc, Paris (1923年)

②International Music Company, New York (1951年、I.Philipp)

③G.Schimer, New York (1955年)

④Heugel-Leduc, Paris (1964年改訂、チェレブニン)

⑤Alfred, Los Angeles (1970年、Olson)

《バガテル》は、チェレブニンの全ピアノ作品中、最も出版譜数が多い。1958年にはピアノ協奏曲へ (Heugel-Leduc, 1964)、1960年にはピアノと弦楽合奏 (Heugel-Leduc, 1965) へと作曲者による編曲も行われている。1964年のチェレブニン本人による改訂版では、メトロノーム表記とアーティキュレーションが加筆修正されている他、コーダも新たに付加されている。現在では②IMC、③Schimer、④Heugel-Leduc、⑤Alfredの楽譜が入手できるが、それぞれに内容が大きく異なるため、④の作曲者本人による改訂版を使用することが望ましい。

II チェレブニン 《トッカタ (ママ) ト短調 Toccata G Minor》 Op.20

作品名：《トッカータ第2番 Toccata Nr.2》 Op.20

作曲年：1922年、演奏時間：7分

概要：Allegretto giocoso ♫ =112、調号：なし、拍子：4/4、小節数：189、

出版譜：①Simrock, Berlin (1925年)

②Simrock, Hamburg-London (1974年改訂、チェレブニン) 取り扱い有り

プログラムにはト短調と記されているが、明確な調性感はない。したがって、現在では調性を記さず第2番と採番される。

III チェレブニン《アラベスク四曲Four Arabesques》Op.11 (1919)

Andantino. Allegro. Vivo. Allegretto. Presto

作品名：《5つのアラベスク5 Arabesques》Op.11

作曲年：1920-21、演奏時間：5分

構成：1.Andantino (piano) 2.Allegro vivo (piano) 3.Allegretto (piano) 4.Presto (piano)
5.Allegretto (violin and piano)

出版譜：Heugel-Leduc, Paris (1925年)

プログラムからは、全4曲から成るピアソロ曲という見方ができる。しかし実際は全5曲から成る。ただし、第5曲はヴァイオリンとピアノの編成である。1925年に出版された記録はあるが、今回の調査では出版譜を確認することができなかった。

チェレブニン《演奏會用練習曲 口長短調Etude de Concert B Major-Minor》(1919)

作品名：《演奏会用練習曲 Étude de concert for piano》

作曲年：1920年、演奏時間：3分、出版譜：Hamelle-Leduc, Paris (1924年)

この作品には作品番号が付けられていない。《5つのアラベスク》と同様に、1924年に出版された記録はあるが、楽譜も音源も残されていない。

IV 近代日本ピアノ曲 Modern Japanese Compositions

「近代日本ピアノ曲」は、1935年に出版された『チェレブニン・コレクション』No.5「日本近代ピアノ曲集一」に所収された作品である。チェレブニンによる録音もビクターレコードで行われた。その時の音源は、2004：「ロームミュージックファンデーション SPレコード復刻CD集」Vol.4「日本人作品集 (1) 日本SP名盤復刻選集」で、現在も聴くことができる。

江文也 (本名、江文彬1910-83) 《スケッチ Sketch》Op.3

作曲年：1935年、演奏時間：1分30秒

概要：Allegro molto vivace e ritomico、調号：なし、拍子：4/4、小節数：31

出版譜：①東京・龍吟社 (『チェレブニン・コレクション』No.5、1935年、チェレブニン)

②北京・中央音楽学院出版社 (『江文也鋼琴作品集上冊』、2005年、江小韵)

江文也是、日本の植民地下であった台湾で生まれ、日本には1923-38年まで留学生として滞在した後、中国に帰国。中央音楽学院で教鞭をとった。その中央音楽学院出版社から2005年に江のピアノ作品全集全2巻が出版されたが、現在は取り扱いがない。また、全ての『チェレブニン・コレクション』は絶版である。

松平頼則 (1907-2001) 《前奏曲 Prelude》

作品名：《前奏曲 Prélude (en Ré Majeur)》 作曲年：1934年、演奏時間：1分30秒

概要：Andante cantabile (Rustique)、調号：♯2、拍子：2/4、小節数：36

出版譜：①東京・龍吟社（『チェレブニン・コレクション』No.5、1935年、チェレブニン）

②東京・現代思潮社（『現代創作舞踊音楽—第1集ピアノ曲集—』No.2

1953年、著：小山清茂方現代舞踊音楽出版企画書）

③東京・全音楽譜出版社（『ゼンオンピアノライブラリー邦人作品シリーズ 松平頼則 ピアノのための小品集』、1971年、松平頼則）

④東京・全音楽譜出版社（『松平頼則ピアノ作品集』、1991年、松平頼則）

松平頼則は、「チェレブニン楽派」と呼ばれる作曲家の中で、最も音源や出版譜が多い作曲家である。近年では、ピアノ曲、歌曲、オーケストラ曲の多くが野平一郎（1953-）によって音源化された。出版譜についても、松平本人による改訂が行われているため、信頼度は高い。③④の楽譜は現在でも取り扱いがある。

太田忠（1901-?）《交通標識 Traffic Sign》

作曲年：1931年、演奏時間：1分30秒

概要：Allgeretto、調号：なし、拍子：2/4、小節数：40

出版譜：東京・龍吟社（『チェレブニン・コレクション』No.5、1935年、チェレブニン）

太田忠は戦後、映画音楽に携わった人物として記録が残っている。戦前は、微分音や環境音を自作に取り入れるという、前衛音楽的な作品を中心に書いていた。《交通標識》は、チェレブニンにより「日本の現代曲」として取り上げられたが、残念ながらその後に出版されることはなかった。

清瀬保二（1900-81）《丘の春 Spring time at the hills》

作曲年：1932年、演奏時間：1分30秒

概要：Molto Moderato、調号：なし、拍子：6/8、小節数47

出版譜：①東京・龍吟社（『チェレブニン・コレクション』No.4『清瀬保二ピアノ曲集一』）

②東京・龍吟社（『チェレブニン・コレクション』No.5『日本近代ピアノ曲一』）

（①②ともに1935年、チェレブニン）

③東京・カワイ楽譜（『清瀬保二ピアノ曲集（一）現代日本ピアノ作品選』、1964年）

清瀬保二是武満徹（1930-96）の師として知られているだろうか。チェレブニンが最も好んだ邦人作曲家であったのにも関わらず、現在彼の作品の演奏頻度は極めて低い。その理由の一つとして、出版譜数が関係している。とりわけ戦前の作品は絶版が多く、入手が極めて難しい。③カワイ楽譜も絶版である。

V チェレブニン《演奏會用練習曲三曲 Three Concert Etudes》（1936）

〈支那月琴 Luth〉 Op.52-2、〈道化師 Punch and Juddy〉 Op.52-4、

〈支那へ捧ぐる禮讃 Hommage à la chine〉 Op.52-3

作品名：《5つの演奏会用練習曲 Fünf Konzert-Etüden》 Op.52

作曲年：1934-36年、演奏時間：18分

概要：〈影絵芝居 Schattenspiel〉 Animato、調号：♯1、拍子：2/4、小節数：143

〈月琴 Die Laute〉 Moderato、調号：なし、拍子：なし

〈中国礼賛 Widmung an China〉 Allegro ♩ =120、調号：♭3、拍子：4/4、小節数：66

〈ポンチとジュディKasperlspiel〉 Allegretto、調号：♯4、拍子：2/4、小節数：95

〈歌Lobgesang〉 Lento、調号：♯2、拍子：2/4、小節数：110

出版譜：Schott, Mainz (1936年、1964年改訂、1999年改訂)

「近代音楽祭」のプログラムでは、3曲から成る作品のように書かれているが、実際には5曲から成る。5音音階で書かれたこの作品は、チェレブニンのピアノ作品中で最も有名だろう。2度の改訂が作曲者本人によって行われており、現在は1999年版を購入することができる。

第1夜「ピアノ独奏会Ⅰ」で取り上げられたチェレブニンの自作品は6、邦人作品は4で、総作品数は10である。演奏時間は、自作品が大よそ50分、邦人作品が6分の合計56分となる。通常の演奏会が70~80分程度で構成されることから、第1夜は若干短い。

2-1-2. 第2夜 1936年10月7日(水)「自作演奏会Ⅱ」のプログラム

第2夜のプログラムは、「V近代支那ピアノ曲」を除いて、第1夜と同じくチェレブニンの自作品で構成されている。

I チェレブニン 《ロマンチック・ソナチネ Sonatine Romantique》 Op.4 (1918)

Allegro. Canzonetta. Andantino. Allegro tempestoso. Allegro tranquillo.

作品名：《ロマンティックなソナチネ Sonatine romantique for Piano》 Op.4

作曲年：1918年、演奏時間：13分

概要： I Allegro、調性：fis-moll、拍子：4/4、小節数：131

II (Cansotetta) Allegretto con moto (♩=108)、

調性：h-moll、拍子：4/4、小節数：114

III Andantino、調性：H-dur、拍子：3/4、小節数：71

IV Tempestoso、調性：c-moll、拍子：4/4、小節数：107

出版譜：Duran, Paris (1925年、I.Philipp) 取り扱い有り

初期の作品は、調性を用いて書かれている。

II チェレブニン 《練習曲 Etudes》 Op.18 (1918-20)

No.9 E flat Major. No.7 F sharp Minor. No.8 F sharp Major. No.4 G Major. No.5 D Minor

作品名：《10の練習曲 Dix Études》 Op.18、作曲年：1915-19、演奏時間：25分

概要： I Allegretto、調号：♯2、拍子：3/4、小節数：44

II 調号：♯2、拍子：12/8、小節数：33

III Marziale、調号：なし、拍子：4/4、小節数：42

IV Andantino、調号：♯1、拍子：2/4、小節数：35

V Vivace、調号：なし、拍子：3/8、小節数：139

VI Moderato、調号：なし、拍子：3/4、小節数：22

VII Allegretto con moto、調号：♯2、拍子：4/4、小節数：56

VIII Vivace、調号：♯5、拍子：12/8、小節数：21

IX Maestoso、調号：b3、拍子：18/8、小節数：67

X Lento、調号：♯2、拍子：3/4、小節数：51

出版譜：Heugel-Leduc, Paris (1925年、I.Philipp) 取り扱い有り

「近代音楽祭」のプログラムには調性が書かれているが、実際の楽曲は明確な調性を持たない。各曲の終止音が、h-moll、h-moll、a-moll、G-dur、d-moll、fis-moll、fis-moll、Es-dur、h-mollのIの和音で閉じているためにプログラムには調性が書かれたのだろう。しかし、No.5、6はDmのコードで閉じていても調号はなく、No.10の終止音は半音が衝突するH-D#-Dの響きで、もはや彼が調性を重視していないことは明らかである。No.2にいたっては速度標語も記されておらず、1小節内にrubato、accelerando、ralentandoが記されるという、演奏者の即興的な演奏に任されている。ゆえに、調性は記さない。

III チェレブニン《夜曲 Nocturne G sharp Minor》Op.2 No.1 (1919)

作品名：《夜想曲 第1番 Nocturne No.1》Op.2-1 作曲年：1919年

演奏時間：3分20秒、概要：Moderato、調性：gis-moll、拍子：12/8、小節数：55

出版譜：①Belaieff, Leipzig (1922年)

②Belaieff, Leipzig (1957年、チェレブニン) 取り扱い有り

調性を用いて書かれている。

チェレブニン《舞曲 Danse F Major》Op.2 No.2 (1919)

作品名：《舞曲 第1番 Dance No.1》Op.2-2 作曲年：1919年、演奏時間：3分40秒

概要：Presto $\downarrow = 160$ 、調号：なし、拍子：3/8、小節数：420

出版譜：①Belaieff, Leipzig (1922年、チェレブニン)

②Belaieff, Leipzig (1957年、チェレブニン) 取り扱い有り

「近代音楽祭」のプログラムには‘F Major’と記されている。しかし、F-durの調号であるb1ではなく、意図的に調性が崩されている。したがって現在では調性は記さず採番のみ記す。

チェレブニン《トッカタ (ママ) Toccata D Minor》Op.1 (1921)

作品名：《トッカータ第1番 Toccata No.1》Op.1 (1921) 演奏時間：6分

概要：Allegro molto $\downarrow = 116$ 、調号：b1、拍子：2/4、小節数：339

出版譜：①Belaieff, Leipzig (1922年)

②Belaieff, Leipzig (1957年、チェレブニン) 取り扱い有り

プログラムには、ト短調と記されている。しかし、楽曲全体で保続音D音が響いているものの、調性を意図して書かれた作品ではない。現在では第1番と採番される。

IV チェレブニン《ロシヤ民謡編曲 Transcriptions of Russian Folksongs》Op.27 (1924)

ヴォルガの船唄 Volga Boat Song 大ロシア民謡 Greatrussian Song.

愛人の唄 Song for the beloved.

作品名：《スラヴのトランскクリプション Slavic Transcriptions》Op.27

作曲年：1924年、演奏時間：15分

概要：1. Les Bateliers du Volga 調性：fis-moll、拍子：4/4、小節数：168

2. Chanson pour la Cherie 調性：G-dur、拍子：4/4、小節数：188

3. Chanson Grandrussienne 調性：B-dur、拍子：4/4、小節数：83

4. Le Long du Volga 調性：fis-dur、拍子：小節数：不明

5. Chanson Tchéque 調性：Fis-dur、拍子：2/4、小節数：89

出版譜：Heugel-Leduc, Paris (1924年) 現在の取り扱いはない。

『スラヴのトランスクリプション』の各曲は調性を用いて書かれている。

V 近代支那ピアノ曲 Modern Chinese Compositions

賀緑汀 『牧童の笛 Buffalo boy's flute』 演奏時間：2分30秒

作曲年：1934年、概要：Commodo、調号：なし、拍子：2/4、小節数：120

出版譜：東京・龍吟社 (『チェレブニン・コレクション』 No.1、1935年、チェレブニン)

老志誠 (LAO Chih-Cheng,) 『牧童の樂 Shepherd's Pastime』

作曲年：1932年、概要：不明

出版譜：東京・龍吟社 (『チェレブニン・コレクション』 No.2、1935年、チェレブニン)

今回の調査では、楽譜を確認できなかった。

VI チェレブニン 『五音音階による小品十二曲 Twelve short pieces on pentatonic scale』

作品52 Op.51 (1935)

Allegro. Allegro molto. Allegro marciale. Allegro non troppo. Animato. Lento.

Allegretto. Andantino. Moderato. Vivace. Allegro. Moderato.

作品名：『5音音階による練習曲 Étude du piano sur la gamme pentatonique』 Op.51

No.3 〈中国のバガテル Baguettes chinoises (12 pièces courtes)〉

作曲年：1935年、演奏時間：11分30秒

概要： 1. Allegro、調号：なし、拍子2/2、小節数：32、献呈：Lee Yuan Mei

2. Allegro Mod.to、調号：♯1、拍子：4/4、小節数：24、献呈：Tsao An Ho

3. Allegro marciale、調号：♯2、拍子：2/2、小節数：24、献呈：Tsi Tchuée

4. Allegro non troppo、調号：♯3、拍子：4/4、小節数：19、献呈：Li Huai Lien

5. Animato、調号：♯4、拍子：2/4、小節数：15、献呈：Chou Pi Cheng

6. Lento、調号：♯5、拍子：2/2、小節数：47、献呈：King Chi Twan

7. Allegretto、調号：♯6、拍子：4/4、小節数：16、献呈：Chien Chao Yen

8. Andantino、調号：♭5、拍子：4/4、小節数：28、献呈：Moa Toa Tsung

9. Moderato、調号：♭4、拍子：2/4、小節数：30、献呈：Chow Ying

10. Vivace、調号：♭3、拍子：2/4、小節数：45、献呈：Li Kung Ching

11. Allegro、調号：♭2、拍子：4/4、小節数：24、献呈：Tai Shih Chuan

12. Moderato、調号：♭1、拍子：4/4、小節数：50、献呈：C.T.Yan

出版譜：Heugel, Paris (1935年) 取り扱い有り

日本語プログラムに記載された「作品52」は、別の作品であることから誤記である。『5音音階による練習曲』 Op.51は3つの組曲からなる。No.1とNo.2は、それぞれが7曲から成る組曲で、12の組曲から成るNo.3にのみ「中国のバガテル」という題が付けられている。彼のOp.51～53は、「東洋への旅行」で体験した中国伝統音楽の5音音階で書かれているが、特にOp.51-3は、5音音階で全調号を使用した試作のような性格である。

VII チェレブニン 『演奏会用練習曲 Two Concert Etudes』 Op.52 (1936)

影絵遊戯 Shadow play Op.52-1、頌歌 Cantique Op.52-5

第1夜で詳述したので省略する。

第2夜「ピアノ独奏会Ⅱ」で取り上げられたチェレブニンの自作品は8、中国人作品は2で、総作品数が10である。演奏時間は自作が大よそ67分、中国人作品が5分の合計72分となる。

2-1-3. 第3夜1936年10月9日（土）「近代日露音楽祭」のプログラムについて

第3夜「近代日露音楽祭 Festival of Modern Russian and Japanese Music」では、ピアノソロ曲の他に歌曲と室内楽曲も演奏された。

I プロコフィエフ (Sergei Prokofiev, 1891-1953) 《物語曲 Ballade for 'Cello and Piano》 Op.15 (1912)

作品名：《チェロとピアノのための「バラード」 Ballade for 'Cello and Piano》 Op.15

作曲年：1912年、演奏時間：13分30秒

概要：Allegro、調号：b3、拍子：4/4、小節数：286

出版譜：①Boosey&Hawkes, London (1947年)

②Peters, Leipzig (1977年)

冒頭はc-mollの抒情的な旋律で始まるが、第14小節で調号がC-durへと変わると半音階的進行が多用され調性感が薄まっていく。このc-mollとC-durが入れ替わりながら進行するため、作品名にはc-moll、或いはC-durの表記が混在する。ゆえに、調性は記さない。

II 清瀬保二《マーチ（小組曲より）さよなら March (from the Little Suite) Goodbye》

清瀬の《小組曲》には、6曲から成るLittle Suite（古舞踊曲Old dance、ヴァルツTempo di Waltz、ユモレスクHumoresque、行進曲March、フェアリ・テールFairy tale、カントリ・フェアCountry fair）と、3曲から成るShort Suite（耳語A Whisper、マーチMarch、おわかれGoodbye）がある。日本語のプログラムでは、〈マーチ〉、〈さよなら〉とともに同じShort Suiteからの抜粋という見ができる。しかし、英語訳のプログラムでは、〈マーチ〉はLittle Suiteからの抜粋で、〈さよなら〉には特に記されていない。したがって、〈マーチ〉はLittle Suiteからの抜粋で、〈さよなら〉は清瀬の全ピアノ作品でも他にないことからShort Suiteからの抜粋ということになる。

〈行進曲〉(Little Suiteより)

作品名：《小組曲 Little Suite》より第4番 〈行進曲 March〉

作曲年：1935年、演奏時間：1分20秒

概要：♩=132、調号：#1、拍子：2/4、小節数：50

出版譜：①音楽新潮社（『音楽新潮』1935年10月（第12巻第10号））、

②東京・龍吟社（『チェレブニン・コレクション』No.10、1936年）

③東京・カワイ楽譜（『清瀬保二小組曲—現代日本ピアノ作品選』、1964年）

〈さよなら Goodbye〉

作品名：《小組曲 Short Suite》より第3曲 〈おわかれ Goodbye〉

作曲年：1931年、演奏時間：2分10秒

概要：Lento、調号：なし、拍子：3/4、小節数：39

出版譜：①東京・龍吟社（『チェレブニン・コレクション』No.4、1935年）

②東京・カワイ楽譜（『清瀬保二ピアノ曲集（一）現代日本ピアノ作品選』、

1964年)

II 江文也《バガテル3曲 Three Bagatelles》Op.8

江文也の全ピアノ作品中に《3つのバガテル》は存在しない。作品番号が示す通り、16曲から成る《バガテル》のことを指しているのだろう。《バガテル》は、江が日本滞在時に書いた作品と、チェレブニンの中国旅行に同行した際に書いた作品で構成される。第3夜「近代日露音楽祭」のテーマを踏まえると、おそらく抜粋した3曲中2曲は、日本滞在中に書かれ、後に《バガテル》の第1番〈青葉若葉〉〈II〉として出版された《五月の組曲—洋琴のための》よりNo.3〈野邊にて〉、No.2〈灯火にて〉だろう。したがって本論では、《バガテル》より〈I 青葉若葉 Green Leaves Young Leaves〉〈II〉の作品概要を記すことにする。

II 江文也《バガテル三曲 Three Bagatelles》Op.8

作品名：《バガテル Bagatelles》より〈I〉〈II〉

作曲年：1935年、演奏時間：各2分

概要： I Allegro animato alla marcia、調号：なし、拍子：2/4、小節数：106

II Lento tranquillo、調号：なし、拍子：3/4、小節数：30

出版譜：①（社）東京音楽協会（『月刊楽譜』第24巻第11号、1935年11月）

②東京・龍吟社（『チェレブニン・コレクション』No.18、1936年）

③北京・中央音楽学院出版社（『江文也鋼琴作品集 上冊』、2005年、江小韵）

伊福部昭（1914-2006）《盆踊 Bon Odori》

作品名：《盆踊り BON ODORI – Nocturnal dance of the Bon Festival》

作曲年：1933年、献呈：George Copeland、演奏時間：4分30秒

概要： Molto resolute $\downarrow = 120$ 調号：なし 拍子：4/4 小節数：97

出版譜：①東京・龍吟社（『チェレブニン・コレクション』No.26、1936年）

②東京・音楽之友社（『世界音楽全集器楽篇第60巻 日本ピアノ名曲集II』

1960年、堀内敬三）

③東京・全音楽譜出版社（『ピアノ組曲』、1969年、伊福部昭）取り扱いあり

〈盆踊り〉は、4曲から成る《日本組曲》の第1番として書かれた。後に《ピアノ組曲》に変更された。〈盆踊り〉は、チェレブニンが好んで演奏した作品で、伊福部との合作によるオーケストラ作品へも編曲された。

松平頼則《ソナチネ Sonatine for Flute and Piano》

作品名：《フリュートとピアノのためのソナチネ Sonatine for Flute and Piano》

作曲年：1930-36年、演奏時間：9分

概要： I Modérément $\downarrow = 96$ 、調号：♯2、拍子：3/4、小節数：147

II Andante $\downarrow = 54$ 、調号：♯4、拍子：4/4、小節数：33

III Vivace $\downarrow = 138\sim 144$ 、調号：♯2、拍子：12/8、小節数：95

出版譜：①東京・龍吟社（『チェレブニン・コレクション』No.11、1936年）

②Sonic arts, Tokyo (1986年)

現在、①②とともに絶版のためか、松平の作品中では珍しく音源化されていない。

IV 小船幸次郎（1907-82）《インヴェンション Inventions》

- (A) フルート・クラリネット・セロ三重奏 (B) ヴァイオリン・ヴィオラ・セロ三重奏
(C) 五重奏

作品名：《3つのインヴェンション Three Inventions》 演奏時間：8分

I Moderato、調号：b3、拍子：2/4、小節数：56、編成：Fl, Cl, Vc

II Vivace、調号：なし、拍子：4/8、小節数：51、編成：Vn, Vl, Vc

III Allegro、調号：b3、拍子：2/4、小節数：128、編成：Fl, Cl, Vn, Vl, Vc

出版譜：東京・龍吟社（『チェレプニン・コレクション』No.25、1937年）

小船作品の特徴である日本音階が使用されている。現在では楽譜の取り扱いがなく、音源も残されていない。

V ストラヴィンスキー（Igor Stravinsky, 1882-1971）

《五音による初步ピアノ曲四曲 4 Five-Notes easy Piano Pieces》（1921）

作品名：《5本の指で Les cinq doigts》 作曲年：1921年、演奏時間：5分40秒

- 概要：1. Andantino、調号：なし、拍子2/4、小節数：20
2. Allegro、調号：なし、拍子：2/4、小節数：49
3. Allegretto、調号：なし、拍子：2/4、小節数：36
4. Larghetto、調号：#1、拍子6/8、小節数：23
5. Moderato、調号：#1、拍子：4/4、小節数：15
6. Lento、調号：b1、拍子：3/4、小節数：19
7. Vivo、調号：b1、拍子：3/8、50
8. Pesante、調号：なし、拍子2/4、小節数：29

出版譜：①Chester Music, London（1922年）

②東京・全音楽譜出版社

（全音ピアノピース、1922年Chesterより著作権取得）

子供用に書かれた8つのミニチュア作品で、7音音階から5音を5本の指に当てはめて均一な練習をするという、教育用教材の性格を持つ。「近代音楽祭」では、8曲中4曲の抜粋であったが、何番を演奏したのかは不明である。現在でも①②の楽譜は取り扱い有り。

ロパトニコフ（Nikolai Lopatnikoff, 1903-76）《対稍曲 Contrast》（1933）

作品名：《5つの対象曲 5 Contrast for Piano》 Op.16

作曲年：1933年、概要：不明

出版譜：Schott's Söhne, Mainz（1950年）

ロパトニコフの作品の多くが絶版である。《5つの対象曲》もアメリカ議会図書館の‘Nikolai Lopatnikoff Collection’に存在した記録のみが残されている。

IV メットナー（Nikolai Medtner, 1880-1951）《氣分畫二曲 2 Stimmungsbilder》（1910）

作品名：《8つの情景画 8 Mood Picture (Stimmungsbilder)》 Op.1

作曲年：1896-97、演奏時間：23分

概要： I Prolog. Andante cantabile $\downarrow = 60$ 、調性：E-dur、拍子：4/4、小節数：73

II Allegro con impeto $\downarrow = 80$ 、調性：gis-moll、拍子：4/4、小節数：46

III Maestoso freddo $\downarrow = 80$ 、調性：es-moll、拍子：4/4、小節数：46

IV Andantino con moto $\downarrow = 69$ 、調性：ges-moll、拍子：4/4、小節数：57

V Andante $\downarrow = 76$ 、調性：b-moll、拍子：6/8、小節数：75

VI Allegro con umore、調性：Des-dur、拍子：3/2、小節数：66

VII Allegro con ira $\downarrow = 144$ 、調性：fis-moll、拍子：4/4、小節数：56

VIII Allegro con grazia (quasi valse.) $\downarrow = 114$ 、調性：A-dur、拍子：4/4、小節数：42

出版譜：①Jurgenson, Mockba (1903年)

②Forberg, Mockba (1903/c.1990) in 2 volumes 取り扱い有り

1946年に発足したメトネル協会により、メトネル研究は画期的に進んでいる。インターネット公開されている作品目録によれば、「近代音楽祭」で取り上げられた《気分画二曲》(1910)は存在しない。ドイツ語の‘Stimmungsbilder’から、《8つの情景画》Op.1 (1896-97) であったと推測される。そのうち2曲の抜粋だが、何番かは不明である。

VI 江文也《生蕃四歌曲 Four Seiban Songs》Op.6

首祭の宴 Feast of the Head-Hunters. 戀慕の歌 Love Song. 野邊にて In a field.

子守唄 Lullaby 作曲年：1936年、演奏時間：12分

概要：首祭の宴 Feast of the Head-Hunters Allegro ma non troppo e ben ritomico sempre、調号：なし、拍子：2/4、小節数：146

恋慕の歌 Love Song Lento con amarezza、調号：なし、拍子：4/4、小節数：27

野邊にて In a Field Andantino con fresco、調号：b3、拍子：2/4、小節数：80

子守唄 Lullaby Andante quasi adagio、調号：b2、拍子：2/4、小節数：42

出版譜：東京・龍吟社 (『チェレブニン・コレクション』No.15、1936年)

VII チェレブニン《三重奏 Trio for Violin, 'Cello and Piano》Op.34 (1924)

作品名：《ピアノ三重奏 Trio pour violin, violin-celle et piano》Op.34

作曲年：1925年、演奏時間：7~8分

概要：I Moderato、調号：#2、拍子：4/4、小節数：95

II Allegretto、調号：#3、拍子：3/4、小節数：62

III Allegretto、調号：#2、拍子：2/2、小節数：139

校訂：I.Philip (Pf)、A.Mogulewsky (Vn)、J.Schrücke (Vc)

出版年：Durand, Paris (1925年) 取り扱いなし

第3夜「近代日露音楽祭」で取り上げられた邦人作品数は7、ロシア人作品数は5で、総作品数は12である。演奏時間は邦人作品41分、ロシア人作品が大よそ37分の合計78分となる。

3. まとめ

「近代音楽祭」のプログラムを調査していくうちに、作品番号や作曲年で多くの誤記を発見した。その他にも、日本語への翻訳や単純に書き方の問題で、実際に演奏された作品名が、一見しただけでは不明であった。今回の調査によってプログラムの全貌を明らかにすることができたのは、今後の研究へ活かせていくだろう。

また、作品概要の調査から、プログラムの構成特徴も浮かび上がった。それは、第1夜が邦人作品とチェレブニンの自作品、第2夜が中国人作品と自作品、第3夜が邦人作品とロシア人作品というように対比された構成ということである。

第1夜の邦人作品は、「日本国民的性格」を持つ作品として『チェレブニン・コレクション』に所収された。共通する特徴としては、日本的なリズムや音階を使用しながらも独自の新しい手法を織り交ぜていることが挙げられる。対してチェレブニン作品の主な特徴は、「チェレブニン音階」と5音音階の使用が挙げられる。前者の音階は、3つのテトラコードが結合した形の9音で構成される。各テトラコードには、1つの全音階と2つの半音階が含まれていることから、長短3度の音程や複雑な和声、さらには半音階的進行も可能となる。第1夜の作品は「チェレブニン音階」が考案された初期の段階にあたるが、彼の目指した方向性が既に表れている。一方、後者の5音音階は1930年代に入ってから使用されるようになった。自らの方向性を民俗的な語法へ帰結させた彼は、とりわけ「東洋」に着目し、伝統音楽から抽出した音楽的要素を作品に反映させていった。《演奏会用練習曲》Op.52は、邦人作品より直截的な5音音階の使用法でありながら、広音域の跳躍や連打等の高い演奏効果により、5音という限られた音響の可能性を示している。

第2夜でも、第1夜と同様にチェレブニンの自作品が演奏された。第1夜との違いは、より多彩なプログラム構成だろう。《ロマンチック・ソナチネ》Op.4の第3楽章はロシアの鐘の音を模倣し、《ロシア民謡編曲》Op.27はスラヴ民謡からの編曲、《五音音階による小品十二曲》Op.51-3と《演奏会用練習曲》Op.52は中国伝統音楽から着想を得て書かれた作品である。このように彼の自作品で構成されていても、第1夜より民俗的色彩の強いプログラムとなっている。また、「近代支那ピアノ曲」として取り上げられた賀緑汀《牧童の笛》と老志誠《牧童の樂》は、中国の「チェレブニン賞コンクール」入賞作品で、『チェレブニン・コレクション』にも所収された。この2作品により中国の音楽情勢を聴くことができただろう。

第3夜「近代日露音楽祭」では、チェレブニンを含めた同時代のロシア人作曲家5名と邦人作曲家6名の作品が取り上げられた。1918年に来日し数度の演奏会を開いたプロコフィエフと、ディアギレフ率いるロシアバレエ団の音楽を担当する等、「世界の音楽の中心地」パリで活躍していたストラヴィンスキーの存在は、日本でも知名度が高かった。しかし、チェレブニンはプロコフィエフの代表的なピアノソナタや、ストラヴィンスキーの3大バレエをピアノ独奏版に編曲した技巧的な作品を取り上げたのでない。室内楽作品では最初の作品である《物語曲》Op.15と、子供用のミニチュア作品《5音による初歩ピアノ曲》を演奏したのである。これによりプロコフィエフの初期の室内楽作品を聴く機会が得られたとともに、ストラヴィンスキーの教材としての5音の扱い方を知ることができた。

また、当時の楽壇では全く知られていなかったロパトニコフとメトネルを紹介したのも興味深い。彼らに共通する点として、ロシアに生まれ、ロシア革命で他の地へ移り、パリの絢爛を身近に感じていたことが挙げられる。しかし、両者を単に「ロシア人」という一つの括りにはできない。ロパトニコフは、特徴的なリズムと不協和音を用いながらも線的性格や動機展開を組み合わせるという構成に卓越した能力をみせ、メトネルはロシア民俗音楽の旋律的、和声的抑揚に由来しながらも、ロマン主義的高揚感とヴィルトゥオーソ的技巧性を洗練させていった。何故、チェレブニンは彼らの作品を「近代ロシア」として取り上げたのだろうか。このことは邦人作曲家に宛てた雑誌記事から知ることができる。

【引用 1】 チェレプニン「日本の若き作曲家に（湯浅永年訳）」（1936:2-4）

十八世紀中頃以後には、外國音樂家に教育された多くのロシア作曲家を發見する。彼等の音も作品も多いが、西欧の影響下にあった以上、優れた西欧曲ともならず、ましてロシア作品とは認められない。（中略）私の父の時代にはすでにロシア系統による音樂教育法が實現されて居て、豊富な音樂的材料が手近に得られたのでストラヴィンスキーやプロコフィエフ等と共に新しい高度に發達せしめることが出来た。私の同時代の者に至ってはロシア的であろうと「試みる」努力も最早不必要であった。私達はロシア主義に生まれ教育されたのである。（中略）音樂に関しては今日の日本と十九世紀後半のロシアの事情の間に共通點のあることを認めた。

この記事から、ロシアと同じ道を進んでいる日本に、チェレプニンが一つの示唆を与えるようとしていることが窺える。それは、「正しい音樂教育」がなされればストラヴィンスキーやプロコフィエフ、そしてチェレプニン自身のように「高度に發達」することができ、また、ロパトニコフやメトネルのように「ロシア的であろうと試みる」ことがなくとも、根底にあるロシア主義的教育を多様に發展させていくことができるということである。つまり、同時代を生きた彼らの作品を紹介することで、ドイツのアカデミックな教育が主流とされていた日本樂壇へ、進むべき方向性を提示しているのである。ゆえに、第1夜がチェレプニンの初期自作品と「日本国民的性格」の邦人作品、第2夜がより民俗的語法を用いた自作品と同じ東洋である中国人作品、第3夜が同時代のロシア人作品と邦人作品という、対比させたプログラム構成なのだろう。

この「近代音樂祭」を通じてチェレプニンが提示した可能性を、邦人作曲家たちがどのように捉えたのだろうか。また、多種多様な風潮が認められる現代では、どのような評価を得るのだろうか。その比較検証は次回に譲ることとする。

資料 1 プログラム表紙（英語）と背表紙（日本語）

ALEXANDRE TCHEREPNINE

1st Night Monday, Oct. 5th
PIANO RECITAL I
2nd Night Wednesday, Oct. 7th
PIANO RECITAL II
3rd Night Saturday, Oct. 10th
Festival of Modern Russian and
Japanese Music
7.30 P.M.



近 代 音 樂 祭

第一夜 十月五日（月曜日）
アレキサンダー・チエレプニン
ピアノ獨奏会 I
第二夜 十月七日（水曜日）
アレキサンダー・チエレプニン
ピアノ獨奏会 II
第三夜 十月十日（土曜日）
近代日露音樂祭
毎夕七時半



Tokyo
Takarazuka Little Theatre
1936

東京・有樂町
東寶五番
東寶小劇場
1936

資料2 第1夜のプログラム

PROGRAM

Piano Recital I

Mon. October, 5th '36.

- I Sonata A Minor Op. 22 (1919) Alexandre Tcherepnine
 Allegro comodo—Andante—
 Allegro—Grave
- II Ten Bagatelles Op. 5 † (1912-17) Alexandre Tcherepnine
 Allegro marciale. Con vivacita.
 Vivo. Lento con tristezza. Dolce.
 Allegro con spirito. Prestissimo.
 Allegro. Allegretto. Presto.
- Toccata G Minor Op. 20 Alexandre Tcherepnine
- III Four Arabesques Op. 11 (1919) Alexandre Tcherepnine
 Andantino. Allegro vivo.
 Allegretto. Presto.
- Etude de Concert B Major-Minor (1919) Alexandre Tcherepnine
- IV Modern Japanese Compositions*
 Sketch Op. 3 Bunya Koh
 Prelude Yoritsune Matsudaira
 Traffic Sign Tadashi Ota
 Spring time in the hills Yasuji Kiyose
- V Three Concert Etudes (1936) Alexandre Tcherepnine
 Luth Op. 52/2
 Punch and Judy Op. 52/4
 Hommage à la chine † Op. 52/3

* (Victor Record S. 53844)

† (Electrola Records)

YAMAHA PIANO

第一夜曲目

ピアノ獨奏會第一夜

十月五日(月)

チエレブニン作

- I ピアノ・ソナタ 作品二十二
 II バガテル(小品)十曲 作品五
 トツカタ ト短調 作品二十

チエレブニン作

- III アラベスク四曲 作品十一
 演奏會用練習曲 口長短調
 近代日本ピアノ曲*
 IV 江文也作 スケッチ
 松平頼則作 前奏曲
 太田忠作 交通探誠
 清瀬保二作 丘の春

チエレブニン作

- V 演奏會用練習曲三曲
 支那月琴 作品五十二第二
 道化師 同 第四
 支那へ持ぐる禮讃 同 第三

* (ピクター・レコード)番號 53844

山葉ピアノ使用

資料3 第2夜のプログラム

PROGRAM

Piano Recital II

Wed. October, 7th '36.

- I Sonatine Romantique Op. 4 (1918) .. Alexandre Tcherepnine
 Allegro
 Canzonetta
 Andantino
 Allegro tempestoso. Allegro tranquillo
- II Etudes Op. 18 (1918-20) Alexandre Tcherepnine
 E flat Major No. 9
 F sharp Minor No. 7
 F sharp Major No. 8
 G Major No. 4
 D Minor No. 5
- III Nocturne G sharp Minor Op. 2 No. 1 (1919) Alexandre Tcherepnine
 Danse F Major Op. 2 No. 2 (1919)
 Toccata D Minor Op. 1 (1921)
- IV Transcriptions of Russian Folksongs .. Alexandre Tcherepnine
 Op. 27 (1924)
 Volga Boat Song
 GreatRussian Song
 Song for the beloved †
- V Modern Chinese Compositions
 Buffalo boy's flute Redin HIO
 Shepherd's Pastime LAO Chih-Cheng
- VI Twelve short pieces on
 pentatonic scale Op. 51 (1935) .. Alexandre Tcherepnine
 Allegro. Allegro molto. Allegro
 marciale. Allegro non troppo.
 Animato. Lento. Allegretto.
 Andantino. Moderato.
 Vivace. Allegro. Moderato.
- VII Two Concert Etudes (1936) Alexandre Tcherepnine
 Shadow play Op. 52/1
 Cantique Op. 52/5

† (Electrola Record)

YAMAHA PIANO

第二夜曲目

ピアノ獨奏會第二夜

昭和十一年十月七日(水曜日)

チエレブニン作

- I ロマンチック・ソナチネ 作品四
 II 練習曲 作品十八第九、第七、第八
 III 夜曲 作品二第一
 舞曲 作品二第二
 トツカタ 作品一

ロシヤ民謡編曲 作品二十七

- IV ダオルガの船唄
 大ロシヤ民謡
 愛人の唄

近代支那ピアノ曲

- V 賀綠汀作 牧童の笛
 老志誠作 牧童の歌

チエレブニン作

- VI 五音音階による小品十二曲 作品五十二
 VII 演奏會用練習曲
 影踏遊戯 作品五十二第一
 頭歌 同 第五

山葉ピアノ使用

資料4 第3夜のプログラム

PROGRAM

Festival of Modern Russian
and Japanese Music Sat. October, 10th '36.

I Ballade for 'Cello and Piano Op.15 (1912) **Sergei Prokofieff**
II. Saito and A. Tcherepnine

II March (from the Little Suite) Yasuji Kiyose
Goodbye Yasuji Kiyose
Three Bagatelles Op. 8 Bunya Koh
Bon Odori Akira Ifukube
Piano solo A. Tcherepnine

III Sonatine for Flute and Piano Yoritsune Matsudaira
S. Miyata and Composer
Modérément Andante Vivace

IV Inventions Kojiro Kobune
a) for Flute, Clarinet and 'Cello
b) for Violin, Viola and 'Cello
c) Flute, Clarinet, Violin, Viola and 'Cello
Flute S. Miyata Viola H. Takikawa
Clarinet T. Tsujii 'Cello H. Saito
Violin A. Hibino

V 4 Five-Notes easy piano pieces (1921) .. Igor Stravinsky
Contrast (1933) Nicolas Lopatnikoff
2 Stimmungsbilder (1910) Nicolas Medtner
Piano solo A. Tcherepnine

VI Four Seisan Songs Op. 6 Bunya Koh
Composer and A. Tcherepnine
Feast of the Head-Hunters
Love Song In a field Lullaby

VII Trio for Violin, 'Cello and Piano
Op. 34 (1924) Alexandre Tcherepnine
A. Hibino, H. Saito and T. Tcherepnine
Moderato tranquillo, Allegro.
Allegretto—Allegro molto

YAMAHA PIANO

第三夜曲目

近代 日露 哲樂祭 昭和十一年十月十日 (土曜日)

I	プロコフィエフ	物語曲 セロ 齋藤秀雄 ピアノ チェレブリン
II	清瀬保二	マーチ (小組曲より)さよなら 江文也 バガテル三曲 伊福部昭 盆踊 ピアノ チェレブリン
III	松平頼則	ソナチネ フルート 宮田清蔵 ピアノ 松平頼則
IV	小船幸次郎	イングッシュンシヨン (A) フルート・クラリネット・セロ三重奏 (B) ヴァイオリン・ヴィオラ・セロ三重奏 (C) 五重奏 フルート 宮田清蔵 クラリネット 舟井富造 ヴァイオリン 日比野愛次 ヴィオラ 鶴川廣 セロ 齋藤秀雄
V	ストラヴィinsky	五音による初步ピアノ曲四曲 ロバトニコフ 對稱曲 メトツナーハ 氣分畫二曲 ピアノ チェレブリン
VI	江文也	生薙四歌曲 首祭の宴 戀慕の歌 野邊にて 子守唄 バリトン 江文也 ピアノ チェレブリン
VII	チエレブリン	三重奏 ヴァイオリン 日比野愛次 セロ 齋藤秀雄 ピアノ チェレブリン

山葉ピアノ使用

引用・参考文献

- 『ニューグローヴ世界音楽大辞典』講談社、1994年。
- 『新訂 標準音楽辞典』音楽之友社、1999年。
- 井上和男・編『クラシック音楽作品名事典(改訂版)』三省堂、1998年。
- Korabelnikova, Ludmila. *Alexander Tcherepnin—The Saga of a Russian Emigré Composer*. Indiana University Press, 2008.
- 王文『中国と日本でのアレクサンドル・チェレブニンの活動における音楽教育的意義に関する研究』エリザベト音楽大学大学院音楽博士後期課程学位論文、2010年。
- 熊沢彩子『アレクサンドル・チェレブニンと日本の作曲:1930年代の洋楽創作における「日本」』東京藝術大学音楽博士学位論文、2009年。
- 服部慶子「『チェレブニン・コレクション』所収邦人ピアノ作品研究と資料批判」国立音楽大学大学院博士後期課程学位論文、2014年。
- チェレブニン「日本の若き作曲家に(湯浅永年訳)」『音楽新潮』1936年8月号(第13巻第8号)。
- Belliaev, Viktor. *Contemporary Music and Alexander Tcherepnin*. November 22-17, Moscow. in L. Korabelnikova ed.
- Nikolai Lopatnikoff Collection <http://hdl.loc.gov/loc.music/eadmus.mu005001> (2016年10月3日、最終閲覧)
- メトネル協会 <http://www.medtner.org.uk/works.html> (2016年10月3日、最終閲覧)